

【エクアドル内政・外交:2023年5月】

1 内政

(1) ラッソ大統領の罷免に向けた動き

6日、証拠不十分によりラッソ大統領に対する弾劾プロセスの継続を勧めないとする報告書案が国会の監査委員会で否決されたことを受け、9日、サキセラ国会議長は国会を召集し、ラッソ大統領に対する弾劾裁判を継続するか否かを問う決議を行い、採決の結果、弾劾プロセスの継続が決定した。16日、サキセラ国会議長は、ラッソ大統領及び裁判を起こした議員らを弁明のため国会に召喚した。

(2) エクアドル国会解散

17日、ラッソ大統領(以下「ラ」大統領)は憲法第148条に規定される大統領権限を行使し、国会解散、及び、国会議員選挙・大統領選挙の実施を要請する大統領令第741号に署名し、その後、閣僚を伴い全国放送にて記者会見を実施した。同会見において、「ラ」大統領は、自身の無実を再度主張し、現在、国会側が公金の不正利用を理由として、エクアドル憲法を無視して政治裁判を進めており、国民の利益を守るためではなく、自分たちのやり方で、大統領の座及び国家のあらゆる権力を奪おうとしていると非難した。今後、選挙管理委員会より、国会議員選挙・大統領選挙の日程(両選挙は同日実施)が公表される予定であり、次期政権が発足するまでは、引き続き、ラッソ政権が国内統治を行うこととなった。

(3) ヤスニ国立公園内の油田開発許可に関する国民投票の実施

23日、選挙管理委員会(CNE)は大統領・副大統領及び国会議員選挙と同日の8月20日に、ヤスニ国立公園内の油田開発を巡る国民投票を実施する旨を発表した。2022年5月、エクアドル憲法裁判所は、ヤスニ国立公園内鉱区の原油採掘の取りやめは、国民の関心事項である旨判決文を出し、本件に関し国民投票をもって決定することの合憲性を認定した。

(4) 選挙日程の公表

23日、エクアドル選挙管理委員会(CNE)は今後の選挙日程を以下のとおり公表した。

- 5月28日～6月10日 大統領・副大統領候補者登録、及び、国会議員候補者登録
- 8月8日 CNEによる大統領・副大統領候補及び国会議員候補の公式リスト発表
- 8月10日～17日 選挙キャンペーン
- 8月13日 大統領候補者による討論会
- 8月20日 大統領選挙(第1回投票)・国会議員選挙
- 10月15日 大統領決選投票

(注:第1回投票において、第一位の候補者が過半数の票を獲得する場合、又は、第一位の候補者が40%以上の票を獲得し、かつ、第二位の候補と10ポイント以上の差がある場合に

は第1回投票で確定)

(5) ラッソ大統領就任2年演説

24日、ラッソ大統領は就任・政権発足から2年を迎えた。国会が解散している中、2周年を迎えるに当たり、ラッソ大統領は演説を実施し、財政赤字及び公的債務の削減等発足2年目の成果を強調するとともに、今般の国会解散に至った理由等を国民に再度説明した。

(6) サラサール・エクアドル司法長官の弁護士試験論文剽窃疑惑

国内の司法試験及び裁判官の任命等を行う司法審議会のサラサール長官が、エクアドル中央大学法学部にて弁護士資格取得した際に提出した論文が40%程剽窃ではないかという疑惑が同審議会に報告されたことで、関係各方面より解任を求められている。27日、エクアドル中央大学学術監査委員会は、同長官の博士論文の剽窃を分析するとし、場合によっては弁護士資格の剥奪もあり得ると発表した。司法評議会も審議プロセス開始に向けて準備を進める一方、検察側は、この疑惑は、同長官を解任に追いやるため、ラッソ大統領の汚職疑惑同様、悪意を持って広められた偽情報であると抗議している。また、同長官は、自身は国会の判断(政治的コントロール)に従うのであって、司法審議会の懲罰体制に従うのではないとの見解を示している。

2 外交

(1) 対伯外交: アマゾン協力条約機構加盟国の連携強化

2日、ビエイラ伯外相の訪問を翌日に控えた外務省では、アマゾン協力条約機構(ACTO※注1)をテーマとした会議が実施され、エクアドルに駐在する加盟国(ブラジル、ボリビア、ペルー、コロンビア)大使が出席した。同会議において、マンリケ外相は、ACTOの次期事務局長に、2005年にキトで創設された財団(FUDELA)で、ジェンダー、地域統合、環境分野の開発プロジェクトに長年携わった経験を持つエディス・パレデス候補を擁立する意向を表明した他、ジェンダーの視点から、国際協力、環境及び持続可能な開発分野で経験を積んだ女性候補者の選考を行うことの重要性についても強調した。

※注1 アマゾン協力条約機構(ACTO)は、アマゾン協力条約(ACT)を締結したボリビア、ブラジル、コロンビア、エクアドル、ガイアナ、ペルー、スリナム、ベネズエラのアマゾン8か国からなる政府間組織で、中南米唯一の社会環境保護のための地域間枠組み。

(2) 対伯外交: 伯外相の当国訪問

3日、ビエイラ伯外相が当国を訪問し、ラッソ大統領表敬、また、マンリケ外相との外相会談を行った。ビエイラ伯外相はラッソ大統領表敬訪問に際し、5月30日に伯で開催予定の南米諸国首脳会合へのルーラ大統領からの招待状を手交した。一方、ラッソ大統領は、安全保障に関する南米諸国の会合を首脳レベルで近く開催したい旨の意向を表明した。また、エク

アドル伯外相会談後行われた記者会見において、ビエイラ伯外相は、両国は緊密な関係にあり、外相会談では、環境保護、経済・貿易、技術協力、人道分野における協力、南米統合等について協議したことを明らかにした。

(3) ガイアナ、スリナム、及びカリコム諸国との関係拡大

外務省は、カルロス・ベラステギ前リオ・デ・ジャネイロ総領事を、新たなガイアナ共和国及びスリナム共和国の兼轄大使として任命した。ベラステギ大使は、2日にガイアナのジョージタウンで、また、4日には、スリナムのパラマリボにおいて、ラッソ大統領からの信任状をガイアナ共和国及びスリナム共和国大統領に奉呈した。同大使は、ジョージタウンでの信任状提出後、トッド・ガイアナ共和国外務大臣等が参加する実務会議に出席し、文化交流、持続可能なエネルギー、アマゾンの環境保護等における二国間関係及び協力の拡大について意見交換した。同様に、パラマリボでは、サントクヒ・スリナム共和国大統領の招待のもと、ラムデイン同国外務大臣と会談し、貿易、科学技術、食糧安全保障の課題に対応するため、二国間だけではなく、カリブ共同体(CARICOM:カリコム)との政治的協議・調整のためのアジェンダ構築について議論した。

(4) カカオ原産地としての認知度向上プロジェクトの開始

5月、外務省は、エクアドルがカカオの世界的な原産地であることをアピールするための新たな活動を開始した。約5,500年前の同国マヨ・チンチペ文化でカカオが使用されていたことを示す考古学的証拠が証明されたことを契機として、エクアドル・ペルー二国間計画エクアドル支部の協力により、本歴史的発見をより国際社会に認知してもらうため、「世界最初のカカオ」の模型が製作された。本模型は、オーストリア、ベルギー、ハンガリー及びスペインのチョコレート博物館に常設展示されるほか、日本、ドイツ、フランス、ブラジル等の各国の博物館でも近日展示される予定である。

(5) プラスチック汚染に関する第2回政府間交渉委員会(INC)の開催

29日より、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際条約を策定する政府間交渉委員会(INC)の第2回会合がパリで開始された。本会合には、国連加盟国175か国、専門機関及び市民社会団体からの代表約2,900人以上が参加し、初日には、INC理事会を構成する11の地域代表(エクアドル、アンティグア・バーブーダ、米国、エストニア、グルジア、日本、ヨルダン、ペルー、ルワンダ、セネガル、スウェーデン)が会合を行った。本年12月から交渉終了までのプロセスを主導するバジャス・エクアドル外務副大臣は、ラテンアメリカ・カリブ海地域を代表する理事会メンバーとして、プラスチック汚染に関するグローバル協定調印式を自然保護の世界的象徴であるガラパゴス諸島で行うことを提案した。

(6) 南南協力への支援要請

30日～31日にチリで開催された、ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC)における第一回南南協力に関する会合にアルボルノス外務省経済・国際協力担当次官が出席し、エクアドルは、持続可能な開発目標を達成するための外交政策ツールとして、南南協力和三角協力を強化することを呼びかけた。また、同次官は、先進国のコミットメントを喚起した他、現在エクアドル・イタリア間で行われているような、革新的な資金調達メカニズムの必要性についても指摘した。